

2023年度

科目名称	母性看護学概論
授業コード	BK214
英語名称	Maternity Nursing Introduction
学期	2023年度前期
単位	1.0
担当教員	藤井 美穂子 (医療科学部), 藤田 聡子 (医療科学部)
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	子どもを産み育てる女性を母性という視点で捉え、父性（親性）や家族の形成期を支援する看護学として、子どもを産み育てていく家族周期の各期における看護の対象を理解するための知識および看護の役割について教授する。また、それらに関する各理論、諸制度、基本的社会資源についての知識の習得をめざす。
科目に関連する実務経験と授業への活用	科目を担当する新任教員は、看護師・助産師としての臨床勤務経験から、思春期から更年期までの女性の健康支援のあり方について、諸外国を含めたリプロダクティブヘルス・ライツ等の流れやジェンダー視点の社会的背景を視野に入れた講義を行う。同時に、保健師としての行政職経験者の立場から、母子保健に関する政策や法律について講義する。藤田先生は現役の産婦人科医であり、女性の生涯にわたる健康問題に関して、臨床医の立場を生かした豊かな講義を行う。
到達目標	この科目はディプロマポリシーに掲げる「高度化・複雑化する医療に対応し、看護実践する専門知識・技術を有する」ため、「対象者に最善の支援ができるように、保健医療福祉システムの中で人々と協働する能力を有する」ための1科目である。さらに、カリキュラムポリシーでは「看護学としての専門知識・技術を学び、論理的思考を修得するため、看護の基本、看護援助の方法、看護の実践」を学ぶ科目の1つであり、以下の2つを目標としている。 1．生育期における母性・父性とそれを取り巻く家族について理解する。 2．母性・父性の概念、女性のライフサイクル各期における看護活動の実際、それらの基盤となる各理論や諸制度、母子保健に関する歴史、現状、統計の解釈と将来の展望について理解する。
計画・内容	1) 第1回 母性看護の基盤となる概念 「母性・父性・親性とは」「母性看護とは」「リプロダクティブヘルス/ライツ」等 担当：新任教員（助産師） 2) 第2回 母性看護の対象理解 「セクシュアリティ、ジェンダー」等 担当：新任教員（助産師） 3) 第3回 母子保健統計と母子に関する法律や諸制度 担当：新任教員（助産師） 4) 第4回 女性のライフステージ各期の看護、男性の更年期 担当：新任教員（助産師） 5) 第5回 リプロダクティブヘルスケア（避妊、性感染症） 担当：新任教員（助産師） 6) 第6回 婦人科疾患：婦人科系内分泌ホルモン、月経異常、避妊、STDs、不妊症等 担当：藤田（産婦人科医師） 7) 第7回

2023年度

計画・内容	<p>婦人科疾患：良性疾患（子宮内膜症、子宮筋腫、卵巣嚢腫等）、悪性疾患（がん等） 担当：藤田（産婦人科医師）</p> <p>8）第8回 まとめ 担当：新任教員（助産師）</p>
授業の進め方	<p>教科書を中心とした講義形式で進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生はノートを作成し、教科書をベースにした学修を实践する。 2. 関連する動画の視聴や資料を熟読する 3. 国家試験問題等をベースにした課題を出す。 <p>さらに、予習・復習は各自の責任において行うこと。</p>
能動的な学びの実施	<p>講義の開始までに課題は提示するが、あらかじめ講義の進捗は提示しているので、提示した箇所を教科書・資料・参考書・ネット情報等を基に予習して授業に臨むこと。</p>
授業時間外の学修	<p>授業前に予め教科書の該当箇所を読み、不明な点を明確にしておくこと（各1～2時間程度）授業後には、頭の整理と思考のまとめを含むノート作成を行うこと（少なくとも1時間程度）試験前には、課題学習等で出した練習問題の解答を提示する。</p>
教科書・参考書	<p>教科書：母性看護学概論 医学書院 参考書：国民衛生の動向 厚生労働統計協会 参考書：木村好秀 齋藤益子、家族計画指導の実際、医学書院 参考書：わが国の母子保健 母子保健研究会</p>
成績評価方法と基準	<p>以下の評価方法を総合的に評価を行う。</p> <p>課題（レポート20%） 定期試験（80%）</p>
課題等に対するフィードバック	<p>毎回の講義後のリアクションペーパーを記載してもらい、次回の講義のはじめにフィードバックを行う。</p>
オフィスアワー	<p>Campus Square 参照</p>
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業に参加すること。 ・20分以上の遅刻は、1回（1コマ）の欠席とする。 ・遅刻2回で、欠席1回（1コマ）とする。 ・また、本講義は後期の母性看護援助論にもつながるため、講義資料をファイルするとともに、必要に応じて自ら資料を集める等して学びを深める。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方 ZOOMやYou-Tubeによるオンライン授業と課題学修を組み合わせる 2. 対面授業に準ずる。